

愛称通りを歩く②

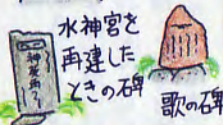
水神通り



MAP 亀戸水神通り

別名、赤門寺
江戸時代に
朱塗の門を
許された寺

江東社会保険事務所



戸水神宮

6月8・9日は祭事で露店が出てにぎやかに!

JR亀戸駅から明治通りを北上すると、右手に亀戸水神通り商店街の大きなアーチが見えます。このアーチから東に水神宮までを結ぶのが「水神通り」。

交通量の多い明治通りとは対照的に、一步脇にそれたこの通りには古い家々や銭湯、魚屋、肉屋などの商店が立ち並び、のんびりとした雰囲気が漂っています。

通りの愛称の由来となった水神宮は、享禄年間(1528~33)の創立と記録されています。当時の付近は農耕が進み、水田が開発されました。そのため、水防用の堤防を築き、堤上に水神を祭つ

たのがはじまり。境内も広く、水神森と呼ばれる森が茂っていたそうですが、戦災により社殿や森は消失。現在の社殿などは昭和35年に再建しました。今は香取神社が管理、亀戸四・五・八丁目の有志が亀戸水神奉賛会(会長・市村幸一さん)として護っています。

また、毎年6月に当宮の祭事があり、今年(土)と9日(日)。境内では民謡や踊りなどの奉納が行われ、水神通りの東側半分は歩行者天国になります。屋台も出て、かなりの賑わいを見せるそうです。

水神宮の隣には水神森交番があり、通りの近くには水神小学校、

東武亀戸線亀戸水神駅と、水神宮にちなんだ名前が多く「水神通り」という愛称になりました。



▲アーチが目印、水神通り



▲交番の隣りにある水神宮